

令和7年10月17日(金)



ここ数日間は曇りや雨でしたが、今朝は真っ青な秋晴れでした。澄み切った青空は、「天高く馬肥ゆる秋」のことわざ通り、空が高く見えました。空気中の水蒸気が少なくなり、大気の混濁度が下がる秋から冬にかけては、青空が美しいです。もう少しすると、本校から冠雪した富士山がくっきりと見えるようになるので、楽しみです。

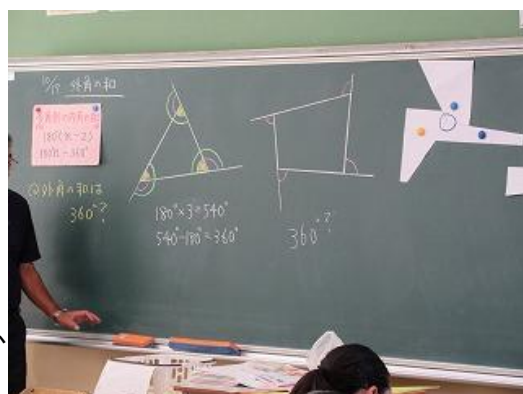
新人大会も終わり、駅伝の朝練習の参加者も増えました。男女合わせて 50 名ほどがグラウンドを走っています。その疾走感は、まさに馬の如し。若さ溢れ、エネルギー溢れる姿に、こちらも元気をもらっています。



3 年生の国語は、三大和歌集の授業でした。三大和歌集とは、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のことです。万葉集は奈良時代、古今和歌集は平安時代、新古今和歌集は鎌倉時代にそれぞれ編纂されました。時代が違えば特色も違ってきます。万葉集は、自然や人間の感情を歌ったものが多く、古今和歌集は、恋愛や無常観、そして新古今和歌集は、無常観がより強調されており、それぞれの時代背景を反映していると言えます。本時は、このような三大和歌集の特色について学びました。国語の先生は、万葉集が一番好きだと生徒に伝えていましたが、私もそうです。特に好きなのは山上憶良の歌です。山上憶良は、官人でありながら、社会的矛盾に敏感であり、弱者への優しさや家族への愛情などを数多く詠んでいます。



2 年生の数学の授業は、多角形の外角の和を求める方法を考えていました。まず、三角形の外角の和です。ヒントとなるのは内角の和。ある生徒が、外角と内角を合わせると 180 度になることに気づきました。すべての外角と内角の合計から内角だけを引けばよいので、三角形の場合は、 $180 \times 3 = 540$   $540 - 180 = 360$  となり、三角形の外角の和は 360 度であることが導かれました。次は、これをもとにして四角形の場合を考えます。四角形の内角の和は 360 度なので、 $180 \times 4 = 720$   $720 - 360 = 360$ 。四角形の外角の和も 360 度となりました。ここで一つの推論が行われます。ひょっとしたら、五角形、六角形も外角の和は 360 度になるのではないかと。ひょっとしたら、どんな多角形でも外角の和は 360 度になるのではないかと。



このように類比推論によって予想を立て、発展的・統合的に問題解決していくことが数学の醍醐味です。一つの問題を解いたら、「じゃあこの場合は？」という新たな問題発見が、数学的な見方・考え方を伸ばす芽になります。ちなみに  $n$  角形の外角の和は、 $180n - 180(n-2)$  で求めることができます。